

平成30年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会 議事録

- 開催日時 平成30年9月26日(水)午後1時30分～午後3時50分
- 開催場所 市役所本庁舎2階 第1委員会室
- 出席者 (敬称略)

【委員】

辻本 勝久(和歌山大学)、大森 秀俊(伊賀市副市長)、金口 正幸(近畿日本鉄道(株) 代理 森本 治実)、藤巻 恵(伊賀鉄道(株))、仲 範和(三重交通(株) 代理 津田大輔)、小谷 貴哉(三重県タクシー協会伊賀支部)、福田 政幸(三重交通労働組合)、四辻 純也(中部運輸局 代理 織田村 夏子)、久世 真(中部運輸局三重運輸支局)、梶田 充代(伊賀警察署交通課)、河本 直紀(名張警察署交通課)、吉川 行洋(三重県地域連携部交通政策課)、福田 勝許(三重県伊賀建設事務所)、奥澤 重久(市民公募)、天満 雅世(市民公募)、堀井 信雄(市民公募)、前山 正清(市民公募)、堀田 大(いが移動送迎連絡会)、福澤 正志(伊賀市障害者福祉連盟)、番條 克治(布引地域住民自治協議会会長)、宮崎 寿(伊賀市企画振興部長)

【事務局】

交通政策課 福岡、吉岡、坂森、吉福
各支所振興課長、課員

- 傍聴人：1人

■会議概要

1. 開会

交通政策課長 福岡

会長あいさつ

皆さん、こんにちは。お集まりいただき、ありがとうございます。今日は、今年度第1回目の会議ということになります。ところで皆さん、文化財巡りはお好きでしょうか。昨年、伊賀市の城下町が日本の20世紀遺産に選ばれ、庁舎の建物自体も構成要素であるということで、私も文化財が好きなものですから、先ほど写真を撮ってからこちらへ来ました。調べてみますと、伊賀市は文化財が非常に多いということに気がきました。国が登録している文化財が、伊賀市に90件もあります。三重県全体にあるのが512件ですので、貴重な文化財が多くある街だとあらためて感じました。文化財には建物もありますし、絵画等美術品もありますし、だんじり等の無形文化財もあり、種類も豊富です。文化財は地域のア

イデンティティのブランドであり、また観光資源でもあります。これを生かさな
い手はないだろうと思います。今年の6月に文化財をもっと活用して地域振興に
つなげたらどうかという趣旨で改正文化財保護法が成立しまして、今後、日本の
あらゆるところで文化財を地域振興にどうつなげていくか、その動きが活発化し
ていくだろうと期待を持っているところです。是非この伊賀市でも文化財を生か
して、いかに公共交通で文化財を便利にまわることができる状況をつくるか。そ
れによって公共交通を利用するお客様が増えて維持ができてくるし、地域が元気
になってくるといいなと考えながら、こちらへ来させていただきました。

今日は事務局から説明がありましたように、予算、決算、網形成計画の進捗状
況、しらさぎ号の見直し再編、そういったことをご協議いただきながら、いくつ
か報告事項もごさいます。是非とも活発なご議論を賜りたくよろしく願いた
します。

2. 協議事項

(1) 平成29年度決算及び平成30年度予算について

事務局から資料1に基づき説明。

監事を代表して吉川委員より監査結果の所見を報告。

【質疑応答】

なし

【承認】

(2) 伊賀市地域公共交通網形成計画の進捗状況及び中間評価について

事務局から資料2-1、2-2に基づき説明。

【質疑応答】

委員	資料2-2、いちばん右の目標値欄で「現況値を上回る」というのは、2017（平成29）年度のことか。
事務局	2013（平成25）年度のことです。
会長	今お話に出てきました現況値で心配なのが、利用促進の取組みに対する協力意向が30数ポイントほど落ちていることです。2020年度の目標として「現況値を上回る」になっているので、いかに引き上げていくか。事務局として進行管理表にどのように書き込んでいくか教えてください。
事務局	この数値については、先ほど担当から説明させていただきましたが、2013（平成25）年度に取りましたアンケートと違う項目で取らせていただいております。それを引用しているというかたち

	<p>でございます。今現在はこの数字しかなかったので、あらためて同じような内容でアンケートを何らかのかたちで取って、それを反映していきたいと考えています。30ポイントというのは、項目が違いますと大きく変わることもございますし、そこはもう一度精査すべきところと考えています。</p> <p>今回お示した数値は、抽出された2,222件のアンケートです。抽出された方で公共交通機関を利用されていない方もございますし、そこも精査の上、今後アンケートを検討していきたいと考えています。独自に進めるのも一つの方法と思っています。</p>
会長	<p>項目が違うので単純に比較できないとのことですが、とは言っても、この19%という数値は低い。進行管理表の中で、公共交通を一生懸命利用しようという意識改革、あるいは行動の改革、そういったところにつながるような部分がどこになっているのか教えていただけますか。</p>
事務局	<p>今まで実際、各地域でいろいろな移動手段がございます。そのような中、利用されている方は少ないですが、利用されている方にとっては残していかなければならない交通網でございますので、そういったところは今少しお話もさせていただきましたが、スクールバスの混乗を検討しています。これを機会ととらえまして、各地域で公共交通のあり方についてご説明をさせていただいて、将来に渡る交通網の存続について働きかけてまいりたいと考えています。会長がおっしゃるように、全項目において厳しい数値となっておりますが、そういった努力も含めまして、各地域の市民の方に乗っていただかなければ存続できませんので、そういったところも継続してまいりたいと考えています。</p>
委員	<p>2018（平成30）年度の事業計画案の中で、「伊賀市の一体化を促進し」とあるが、それぞれの地域の中で公共交通の利用が非常に少ない。一体化がされていないということの大きな理由だと思う。後でしらすぎの話も出るようだが、旧上野市内でも不便地域がある。そういう人たちにとってみたら、公平ではない。公共交通の不公平さが出ている。ましてや旧町村では、市になってもまだ公共交通としての公平性ができていない。</p> <p>私も旧町村部に住んでいて、支所の皆さんといろいろ勉強しながら調査したところ、伊賀市の中で公共交通を使って市役所新庁舎や市民病院に行こうとするとかなり費用と時間がかかる。そこら辺で、公共交通が利用されていない。もう少し大きなメスを入れて、本当に</p>

	<p>市民の皆さんが公共交通を利用して、一体化になってきたということが実感できるような、そういったものがもう少し具体的に示されないと、この数字はあらたまらないのではなかろうかと考える。伊賀支所から中心部まで、800～900円くらい。そして最高の時間で、2時間以上かかるときがある。こういうことを考えると、果たしてそんなので公共交通を利用する人が出てくるのか。ましてや乗り継ぎ、乗り継ぎで最高4回。ということになると公共交通を利用せず、誰かにお願いして中心部まで連れて行ってもらうことになる。そこら辺をきっちりと公共交通としての役割を果たすというメスを入れて大きな改善をしないと、この数値はよくなると思う。この協議会の中で、いろいろな交通機関の専門の方もお見えですので、そこら辺もお考えを聞かせていただければと思う。</p>
委員	<p>関連して、資料2-2でほとんどの項目で悲観的な数値が並んでいる。一つだけ、伊賀鉄道の通勤定期の利用者の数だけ上向いている。その他は全部少なくなっている。ということは、こういう統計を取ると、伊賀地域の公共交通が活性化されるということとは裏腹に活性化されていないということが具体的に数字で出てきている。こちらの資料2-1「進行管理総括表」では、事業者の方へ伊賀市の公共交通が活性化するようにいろいろと申し入れていると。それで、他にもやっていただけるようなことを書いてあるが、実はそんなことはばら色であって、JRの複線の会とか今後は申し入れてもこの統計を見ていると、やっていってくれるようなことはほぼ期待できないのではないかと。これを見ていたら、いかにも近日近年やっていただけるようなことが今後の方向性として書いてあるが、実はそれとは裏腹じゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>この件につきましては、市として交通網形成計画のもとに進めているものでございます。鉄道や基幹のバスを基軸にしながら、交通網を形成していくという考えのもと進めておりますので、おっしゃっていただいているような抜本的な見直しというのは当然あるかと思えます。ただ、この点につきましてはシステム自体の検証も必要になってこようかと思えますので、各地域の事情もございましてそういった意見を聞きながら検証していきたいと考えています。</p>
委員	<p>最初のメンバーからいうと、今日で4回目の会議になります。前回の会議で、今まで意見が出ている。事務局から今、意見をお聞きしてという話があったが、1回目、2回目、3回目、それぞれ委員の方から意見が出ている。前回のときに会長も了解だと思いが、意</p>

	<p>見に対する見解、例えば市町村合併してからだいが経つが、未だに旧6市町村単位でのバス運行で、一体化のバス運行ということは考えていない。そういう意見も出ているわけです。それについての見解がここで事務局から出て、具体的な協議の準備をしてもらわないと結局、努力しましょう、部分的にはがんばっていますねという話で終わってしまう。支所まかせの今のバスの体系を、抜本的に見直すようなかたちで考えなければいけないと思う。次回、もうちょっと具体的に今までの発言を整理してきっちり見解を出してほしい。意見を受け止めて検討するのか、あるいは意見として聞き流すのか。真剣に取り組んでいかないと協議会の任期が終わり、年度毎に委員が交替して終わってしまうということになりかねないので、よろしくお願したい。</p>
<p>委員</p>	<p>前回も私は免許返納制度の割引制度について、三重交通が免許返納者に対して半額にするという制度があって、三重交通が運行している路線は運賃が半額になるが、三重交通が運行していない地域の免許返納者はどうなるのですかという意見を出させてもらった。市として、税金を安くするということを考えてはどうかと言わせていただいた。</p> <p>ここまで来たら、支所本庁間直通の公共交通バスを午前1本、午後1本走らせると、市民の皆さん方から見た大きな成果になると思う。伊賀市一体化について考えてくれているんですね、となるかと思う。行政と運行事業者で話を進めて、公共交通としてどのように進めていけば市として一体化するかと、ここらで具体的な策を出してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど申し上げたように、計画に基づいた運行の実施というのが本来の姿と考えています。そういった抜本的な考え方というのにも必要かとは思いますが、バス体系のシステムを考えていく中で方向性を生み出してまいりたいと考えています。</p> <p>もう一つ、免許返納のお話ありがとうございました。報告もさせていただきましたが、障がい者割引について請願が議会へ出され採択されています。この件については、福祉部門で市の福祉施策として助成していくかということを福祉部局で検討しているところでございます。</p> <p>また、免許返納者について交通安全の切り口で、これも市民生活課という部署で、交通安全に向けて補助をしていくかどうか検討をしているところです。</p>

委員	<p>計画的に進めているということで、計画どおりにしているにもかかわらず、利用者数が減っているということは何かしら問題があると思う。やはり、利用者の立場に立って計画どおりだと、その計画内容がニーズに合っていないということが考えられると思う。例えば、観光客が天候によって来られなかったので利用者数が減少したという話があったが、コミュニティバスを平日は市民向けルートを考える。土日については、観光客向けルートを考えるという経路の見直しをしてはどうかと思う。平日利用されるのは高齢の方や車に乗れない方が多いと思うが、その方は家族の方が土日休みであれば一緒に買い物に行ったりするので、逆に言うとバスの利用が少ないと思う。そういうことを踏まえたコースの見直しも然りですし、この免許返納者については、年間フリーパスというのを考えてみたりとか、年間何万円か払って伊賀鉄道、三重交通バスやコミュニティバスに乗り放題ということを考えてみてはどうかと思います。</p>
事務局	<p>しらさぎについてはこの後ご協議をいただきますが、市役所新庁舎の開庁にあわせて、来年1月1日からのルート変更、ダイヤ改正を考えています。人口自体が減っている中で、少しずつ下がってきている利用状況ということは否めませんが、どうやって増やしていくかということをおっしゃられるように市外から来て乗っていただける方を増やしていくことがいちばんの策だとは考えています。コミュニティバスは市内の方の利用を大切にしながら、土日の観光客にもご利用いただけるようなご案内、PRを市外へ向けて発信しながら、利用いただく方を増やしていきたいと考えています。</p> <p>また、先ほどからお話しいただいています免許返納された方については、所管の部署で検討していますので、市としてどうしていくのかということ調整しながら進めていければと思います。</p>
会長	<p>皆様から活発なご意見をいただいています。計画どおり進んでいるとしながら、具体的な施策につながっていないというお声が強いかと思います。一つの案として、この計画は6年計画なので、一度中間見直しをやってみて、平成31年度、32年度だけになるかもしれませんが、その2年間の修正計画をつくるといったことはあってもいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>この計画は議会にもかけまして承認をいただいています。これが市民の意向ということで、それが大前提であるということと、時代に合った細かな取組みについては、変更となると議決がまた必要となってくるため、承認いただいた議会のことにもかかわってきます。</p>

	<p>できましたら変更ではなく、大きな趣旨を残しながらということであれば考えられるのかなと思います。</p>
会長	<p>今は検討いただくという方向でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>イメージ的にどのようなものか出て来ないので、会長とご相談させていただいて可能な限りそういった取組みはできたらと考えています。</p>
委員	<p>資料5の2ページ、廃止代替バスと行政バス、総合評価を見ていますと○が4つだけで、今のやり方ではだめだという資料ではないのですか。6年の計画の半ばに来ているわけですから、3年前の議会の議決を得たかもしれませんが、同じことを繰り返していても見通しがないのであれば、それこそもう一度議会にかけて、見直し案を精査していく必要があるのではないですか。このままだったら、3年経っても改善する確信は私にはありません。ですから6市町村の枠を取っ払った一体化の路線計画を当初していなかったことが最大の問題だと思います。その見直しについては、議会だとか事務手続きだということだけではなくて、利用する市民の立場に立って抜本的な見直しをするべきだと思いますがいかがでしょうか。とにかく、旧6市町村の枠にとらわれない再編計画をする必要が私はあると思います。</p>
事務局	<p>現状では、交通網形成計画に基づく数字ではご覧のとおりでございます。先ほど少し申し上げましたが、公共交通網を残していくということで、スクールバスの混乗を考えています。これが大きな節目になると考えていまして、これを実行することによってバスの数値が大きく変わってまいります。これから地域に教育委員会とともに入り、いろいろなところで精査はしてまいります。これを実行することによって大きく変わってくるのではないかと考えています。</p> <p>また、6市町村合併して一体的なものになっていないというご意見だったかと思いますが、やはり伊賀市として各支所も含めてできるだけこまめにダイヤ改正をしながら、少しでも改善するよう努力しながら取り組んでいますので、そういったところは付け加えさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>先日も地域部会がありまして、平成29年度の成果として事業報告をいただいていることは確認していますが、皆さんおっしゃるように、議論したことができないのは何かあるのかと思ってしまう。先ほども観光ルートバスを考えてはどうですかというお話も出ましたが、伊賀市の北のほう藤林長門守、南のほうへ行きますと百地三</p>

	<p>太夫という、そういう場所があるわけですね。市がそういうところへ向けて公共交通を走らせて観光客を誘致するという事も考えられますし、伊賀市にはいろいろなところに温泉がある。温泉施設を巡るバスを走らせてはどうか。いろいろなことが考えられるわけですね。しかし、そういうことができないことが、私どもとしてはあるのかなと考えざるをえない。もっと、市民の皆さんの意見を聞いて、そういう中で伊賀市の中の公共交通を市民の移動手段として、また観光客のための公共交通を作り上げるのに、何か問題がありますか。何もないですよ。僕も議会に決議をいただかなければいけないとかそんなことは別にして、どんどんと部署のほうで計画を出して、いろいろ議論してその上で議会へ出していくとされたらどうですか。議会があって、そしてその傘の中で動いているような感じがするので、そうではなくて来られている皆さんのご意見を具体的に計画にまとめて進めていかれてはいかがかと思う。</p>
事務局	<p>委員おっしゃるとおり、問題となることはございません。私ども当然、前向きに取り組むべきだと考えています。誤解があつてはいけませんので申し上げますが、いろいろな面で鉄道事業者様と観光を切り口とした取組みを進めています。また、バスについては、観光という切り口ではできていなかったということもございます。市に観光戦略課という部署もございます。そういった部署とも連携しながら、バス事業者様も含めて一緒に取り組めるところを協議しながら考えてまいりたいと考えています。</p>
会長	<p>たくさんご意見をいただいています。どうでしょうか、抜本的な見直しをとというご意見が強いのかなと思いますが、中間の見直しについて事務局で検討いただいて、次回にご説明いただくという方向でいかがでしょうか。</p>
委員	<p>ちょっとまだ終わらんといてください。私らの意見を出させていただいて、結局その意見に対してどうするということが一回も、会長さん、司会者として言ってくれていないですよ。はっきり言いましたら、その意見はピントが外れていて全然聞くあてがないということでしたら、そう言ってもらったらい。いかにも承りました、はい、ということで、検討してくれるのかなと思ったら、次の会議のときには、その件に関しては何も最終的にどうだったかという回答もない。実際に自分の意見もよかったのかなあ、検討してくれるのかなあと期待をいだかせるようなことでなく、それはこういうふうに行っているの、そのご意見は無理ですとかははっきり言っ</p>

	<p>てくれたらいいですよ。検討しますが何もないというのは、あまりここで何か言われても困るなという何かがあるのでしょうか。その意見を無視してしまうというか。私ら市民に、できないことを期待を持たせるだけであやふやなものと違って、はっきりと「検討しましたができません」とかね、3年経っても活性化している状況ではないと、はっきりと本当のことを示してくれるほうがいいと思う。そういう意見に対して無視しなくて。そういうふうなところどうでしょうか。私が前回出した意見も、それに対してどうかということは何も言ってくれていない。資料を見て、利用者が全然増えていないとかね、一つだけ増えたところがあるが、あとは2017年に向かって数値が全部減っていると。ということはどういうことかと言うと、活性化されていない。地域交通の利用者が増えていない。活性化されていないということを認めて、じゃあどうしたらいいかということを考えていけるのではないですか。それなのに、検討していただいています、鉄道事業者の人もとかというようなことを今後の方向性としてバラ色のことを書いてくれてあるところが多いのですけれども、こうは言っても程遠いのだということをはっきり言ってもらったほうが、伊賀市の現状がそうなんだなということが、わかりますやんか。こんなことばかり勉強してがんばってというようなことなら、このとおり思ってしまうですよ。この何年かのうちに活性化されるんだなと。そこどうでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。このままの計画ではだめではないかというご意見が強いということを認めて、中間見直しということで提案させていただいた。これは非常に大きなことだと思います。委員さんの関西本線のご意見等を聞いた上での話なので、その辺は理解していただきたいと思います。私が言いました中間見直しですと、検討ということではいけないのではないかと思います。計画をこのままでいくより見直したほうがいいのではないかと申し上げたのは、大きな私からの提案になります。</p>
<p>副会長</p>	<p>何をどう見直すかということがあろうかと思う。今は漠然とした議論になっているが、何も検討していないかという話があります。そうじゃなしに検討しているんですね。事務局の説明が悪いかもしれないが、例えば阿山の巡回バスもすぐに検討して直している。直した結果は悪かったです。いろいろな検討はしているのですが、皆さんの中ではそれが不十分だと。ただ、市は努力しなければいけないところがある。それはもう少し市がしっかり説明しなければなら</p>

	<p>ないところだ。公共交通に限っては、皆さんもっと乗って残すという意識が、私も含めて難しい。例えば今日の会議、皆さん公共交通機関に乗っていただいているかという話もある。今、伊賀市は4つの分庁舎になっていて、一つになれておらず、今からすぐ会議をするとなっても公共交通で来ることができないという状況だ。1月4日には新庁舎ができ、すべて会議は車で来ない。公共交通で来る。例えば今日のような会議でも、車で来たら旅費は出さない。そういうことまでする必要があろうかと思う。この辺は1月からしっかりやるというかたちで、もうちょっと公共交通を利用してもらおうと。まだまだそういう面で不十分だと。皆さん今日は本当に公共交通で来ていただいていますか。その場合は、何時何分の電車があつて、何時何分に着くよといったことをしっかりお示しして、そういう会議をしよう。これからそういうふうにやろうというふうを考えていますので、もうちょっと市も真剣に取り組むので、市民の皆さんも一緒に一生懸命取り組む必要があるかなと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>副市長さん、それはお言葉ですが、それだったらそれが現実と違いますか。特別そんな公共交通で来いという、市役所職員だったら同じあれやから号令できるけれども。</p>
副会長	<p>少なくともこれは公共交通の会議ですから、ぜひ公共交通機関でお越しいただきたい。市ももっとPRをしなければいけないのですが、抜けていて、話をしなければいけなかったのですが、そういうことだと思います。まず、ここから始めよう。それがこの会議のやり方だと思います。</p>
委員	<p>この会議の中で言ったことに対する検討結果がない。例えばパブリックコメントとかであれば、それに対するコメントを出している。次回から、今まで出た意見に対する見解をきちっと文書にして、それを確認した上で次に進める必要があるかと思う。ですから、私が言っている意見の中で、6市町村の枠を取っ払った見直しをする必要があるという意見に対してどうなのかと。それは必要ないというのだったら理由を述べていただいて、進めていけばいいと思う。そういう改善をお願いしたい。</p>
副会長	<p>すべての会議がPDCAをまわすという会議のやり方なので、前回の反省からやるべきだと思うので、それはたいへん申し訳なかったと思う。次回から、前回の会議の振り返りとともにどうしていくのかということをお示しさせてもらえばと思う。</p>

委員	<p>会議に出席するのに公共交通機関を使うというお話、非常にいいと思った。実は私、料金と時間を全部調べたんです。伊賀支所から新しい市の庁舎へ行くのに公共交通機関を使うと、1時間50分から2時間かかる。これで片道900円。車で来ると15分から20分で来れるところを、2時間かけて私よう出席できません。私が言っているのは、そこを何とか改めるためにこういう会議をやって、もっと具体的なものを出していただいて、私らの公共交通機関を使ってこの会議に出席するにはいちばんいい方法は何だろうかと考えると。直通バスが1本あればそれで充分。そういうことになると経費もかかるし大変なことになるのかと思うが、そのことも検討した上で、一度市のほうからご提案をいただいて、こういうことがあるけれどもどうですか、現状はこうですが、将来的には直通バスを考えています、ご利用して来てください。そういうふうにしていただかないと、1月から次の会議からこれで来てくださいと、とんでもない時間と費用がかかる。ですから、私は是非ともそういう方向で検討していただきたい。そうすれば皆それを利用してやれるというふうに思う。</p>
副会長	<p>会議の時間も1時半からと決めていて、その時間に集まれるのかということもあると思う。どうしてもバスが難しいということであればパークアンドライドという方法も考えていますので、最寄りのJRの駅や伊賀線の駅に車を置いて、鉄道に乗っていただいて来ていただくと、そんな仕組みも考えていますので、それもいずれかの時点でお示しできるかと思えます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。今日たくさんのご意見をいただいて結果を、次回の協議会でお話をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。資料2-1の、1-6ページ、2-2ページ、3-3ページにある、このような評価内容と大きな方向性でよいかどうかというところを最後に見ていただければと思えます。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>この計画には大きな計画がいくつかあると思う。スクールバスの混乗とか。すべて全部平行して平成32年度に終わるということですか。</p>
事務局	<p>あくまでも想定ですが、6年間の計画になっていますので、6年間で過ぎると物理的に無理なものもあるかもしれません。そういったときには次の計画に引き継ぎます。基本的にはこの6年間で目標に向かってこういったメニューをやることによって、利用の促進を図</p>

	っていこうというものです。
委員	計画が策定されて活性化されない。何が問題であるかということ掘り下げて、もう一度6年の計画で検討するということですか。
事務局	年数というのは別にあると思いますが、例えば3年の計画、4年、5年の計画というものがございまして。その計画に適した年数と、達成に向けてすぐできるものとできないものがありますし、そういったところも検証しながら、できたものであっても日々状況も変わってきくかと思っておりますので、より良いものができるのであれば、項目としてあげていきたいと考えています。
委員	32年までに計画に載っているが、32年度という1年間は長いものだと思う。32年の何月までに完了とか、詳細計画を最終期日として入れたほうがよいのではないかと。本当にやっているのかという心配感がある。
事務局	項目によって1年、2年で終わっていくものもありますが、目標ですべてのものが32年度で終了というわけではございません。できるだけ前倒ししてやっていけるものは前倒ししていきたいと考えています。
会長	他にご意見ございませんでしょうか。中間評価と進捗状況について、提案どおりでよろしいでしょうか。
委員	最後に一つだけ。これ、いろいろ目標を掲げて、32年までに達成されないということで具体的な数値でわかった場合は、ずっと達成するまでやるということか。
事務局	ものによるかと思っております。大きな理念を掲げてやっているものもございまして、計画的なこと、実際の細かな事業であったりといったものが混在しているような計画となっておりますので、大きな理念の中では達成されなくとも継続していく必要があるものであれば掲げていくべきかと考えています。
委員	理念的なものであれば達成していなくとも、わかってくださいということで終わるということですね。
事務局	やはり、ものによると思いますが、やはり、市として取り組んでいたり、地域の思いということもございまして。それが、地域の方が、市民の方が望まないということであれば、当然変更すべきだとは考えていますが、そういう思いがあるのであれば継続して進めていくべきものかと考えています。
委員	ここに掲げていただいているのは、共通のものばかりでしょう。望まないものを掲げて意味がない。

事務局	おっしゃるとおりだと思います。
会長	ありがとうございます。先ほどの話に戻りますが、私がまとめさせていただいた内容でよろしいでしょうか。それでは、次の事項について事務局から説明をお願いいたします。

(3) 上野コミュニティバス「しらさぎ」見直し再編について
事務局から資料3に基づき説明。

【質疑応答】

委員	7月13日に会長協議の後、それぞれの地域部会のほうへ説明に行っていますが、8月21日に市議会の全員協議会へ説明に行っている。会長協議の後に市議会のほうへ行くのではなく、地域部会のほうへすぐに行けなかったのかということが他の地域の方からも意見が出ている。それから、この資料には交通安全のことは何も書かれていないが、三重交通さんへお願いということかと思う。最近、交通事故のときなど、ドライブレコーダーを確認して検証している。バスすべてにドライブレコーダーが設置されているのか。
事務局	会長協議の後のことですが、しらさぎは旧の上野の市街地を走っているもので、上野地域部会と考えていましたが、庁舎にお越しいただく市民の利活用も含みますので会長に協議させていただきました。会長からは全市民に関することで、接続するバスもあることから、各地域部会へお示しするようにというお話がございましたので、地域部会へお話をさせていただいたところです。この協議会は、法的な根拠に基づく設置でございます。独立した協議会ということでございます。ただ、市で考えていますのは、議会で地域部会へ説明に行かせてもらいますよという情報提供で、議会のほうへ説明を早いうちにさせていただいたということでございます。 ドライブレコーダーの件は、三重交通さんからお願いできたらと思います。
委員	ドライブレコーダーについて回答させていただきます。しらさぎをはじめ当社で運行するバスには、すべてドライブレコーダーを車両中および外の様子を両方写すような格好でカメラが付いていますことをご報告させていただきます。
会長	他にご意見ございませんか。ないようでしたら、この件につきましてでは提案どおりご承認いただくということでよろしいでしょうか。

【承認】

3. 報告事項

(1) 平成29年度伊賀鉄道伊賀線に係る実績について
事務局から資料4に基づき説明。

【質疑応答】

なし

(2) 平成29年度バス路線別実績及び評価について
事務局から資料5に基づき説明。

【質疑応答】

なし

(3) 利用促進対策路線（阿波線）について

【質疑応答】

副会長	一点だけ教えていただきたい。個別の路線の評価で見ると、28年度も29年度も○なのですが、それでも利用促進対策路線である。その整合性はどうか。
事務局	阿波線については市の準基幹バスという位置付けですので、基準を満たしているということで、○×の評価をさせていただいています。
委員	ここで全部○だが、どこかの基準では基準が違うということによるのでしょうか。
事務局	これはあくまでも協議会で決めていただいた見直しの基準ということで設けさせていただいてあります。
委員	三重交通が補助を受けられるかという話はどうか。
事務局	三重交通さんから利用促進対策路線の申し出があった基準というのが、平均の乗車密度で三重交通が補助金をもらう基準を割りそうだということで、今回利用促進対策路線の指定を受けたというかたちになっています。
副会長	基準が違うということかと。協議会の基準と県交通の基準とが若干違うということですね。

4. その他

会長	今日予定していた協議事項、報告事項すべて完了いたしました。
----	-------------------------------

	何かございましたらお願いします。
副会長	<p>今日のご議論いただきまして、ありがとうございました。計画は計画のための計画ではないので、それをどうしていくのかということがあります。本当に貴重なご意見いただきましたので、議会とは関係なく、皆様のご意見をどういうふうに反映させるかということかと思う。この辺は、しっかりと事務局で検討して、せっかくの会議ですから実りのある会議になるようにできればと思う。これからもよろしくお願ひしたい。</p>

(以上)